

令和元年度 校長経営戦略支援予算【加算配付】配付申請書(選定校記載用)

(校園コード)

※校園コードを入力してください。

学校名

※学校名は校園コードを入力すると自動で表記されます。

1 配付額 円

2 自校の現状・課題(※小・中学校においては、学力課題に限定)

平成30年度の全国学力・学習状況調査の結果を平均正答率でみると、国語A・Bともに全国平均より低い結果であった。特に、「書くこと」に課題が感じられた。算数Aは全国平均にわずかに届かなかつたが、大阪市平均と同等であった。算数Bは全国平均より1.5ポイント高い結果であった。算数に関しては、一定の成果が感じられた。しかし、児童質問紙の結果を見ると、「朝食を毎日食べますか」に対する肯定的回答の割合が特に低く、家庭学習の習慣が身についていない児童の割合も多い。基本的生活習慣に大きな課題が感じられ、支援が必要である。

3 年度目標(※小・中学校においては、学力向上の目標を記載すること)

・2019年度の小学校学力経年調査における標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。

・2019年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均の7割に満たない学年移動の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント減少させる。

目標に対する達成状況(取組完了時)

達成

※決算報告時に記載

4 年度目標達成に向けた取組内容(予算反映するもののみ記載)

【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】

少人数・習熟度別授業を活用し、わかりやすい授業づくりをめざし、基礎学力の定着を図る。同時に、児童が漢検や英検Jrに挑戦したり、苦手な学習を克服したりする取り組みを工夫し、児童の興味・関心を高めながら、基礎・基本の力を着実に伸ばし個の力の底上げを図っていく。

5 年度目標に応じた事業効果を測る指標(期待する効果等)

・単元テストの正答率を取り組み実施前後で10%向上させる。
・学校教育アンケートにおいて、「日々の授業や学校生活での取り組みを通じて、自分の学力を高めることができた」の項目で肯定的回答する児童・生徒の割合を65%以上にする。

指標に対する達成状況(取組完了時)

達成

※決算報告時に記載

※事業効果は必ず数値目標を設定のうえ、進捗状況を測ることができる内容としてください。

6 年間スケジュール

	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
少人数・習熟度別授業、漢検、放課後学習、全学年での外国語活動									
取組み			英検Jr受検手続き			英検Jr受検			
効果検証	単元テスト <input type="checkbox"/>		単元テスト <input type="checkbox"/>		小学校経年調査 <input type="checkbox"/>	小学校経年調査 <input type="checkbox"/>	単元テスト <input type="checkbox"/>		

【裏面に続く⇒】

取組

1

(校園コード 761764)
学校名 新今宮小学校

7. 取組内容・予算内訳

(1) 取組内容【施策番号 施策名】 【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 児童が漢検や英検Jrに挑戦したり、苦手な学習を克服したりする取り組みを工夫し、児童の興味・関心を高めながら、基礎・基本の力を着実に伸ばし個の力の底上げを図っていく。	委員会使用欄	達成
予算内訳 ・英検Jrの受検費用 12-4 @1,000×200人=200,000円		
期待される効果 ・単元テストの正答率を取り組み実施前後で10%向上させる。 ・学校教育アンケートにおいて、「日々の授業や学校生活での取り組みを通じて、自分の学力を高めることができた」の項目で肯定的回答する児童・生徒の割合を65%以上にする。		

(2) 取組内容に対する実施スケジュール

	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
少人数・習熟度別授業、漢検、放課後学習、全学年での外国語活動									
取組み			英検Jr受検手続き			英検Jr受検			
効果検証	単元テスト		単元テスト	小学校経年調査		単元テスト			

(3) 取組内容に対する中間報告 **※中間報告時に記載**

- スケジュールどおり実施できている。
スケジュールにやや遅れがあるが、取組は予定どおり実施できる見込みである。
スケジュールに大幅な遅れが出ている。(□他責・□自責)

[大幅な遅れがある場合]理由及び対処方法(年度末到達目標の修正など)

(4) 取組内容に対する決算内訳

決算内訳

※決算報告時に記載